

群馬県議会 リベラル群馬

後藤かつみ

先進県の取り組みをもとに、県独自の公共交通ビジョンを策定すべきと提言(2015年9月議会)

2017年 6月定例会報告

街頭演説
2600日

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所
住所 高崎市八幡町 800-24
TEL&FAX 027-343-1393
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com

<http://www.ccrgoto.com/>
<http://www.eaglesgoto.com/>(スマートフォン用)

CONTENTS

- 公共交通再生へ、いよいよ本腰～県総合交通計画策定に着手～
- 県議選定数見直しがスタート～多様な民意を反映できる見直しを～
- 教員多忙化解消に向け、協議会設置～鍵は実態把握と認識共有～



コンパクトなまちづくりへの転換を提言。
「ぐんま“まちづくり”ビジョン」策定に繋げる。

公共交通再生へ、いよいよ本腰
 県総合交通計画策定に着手

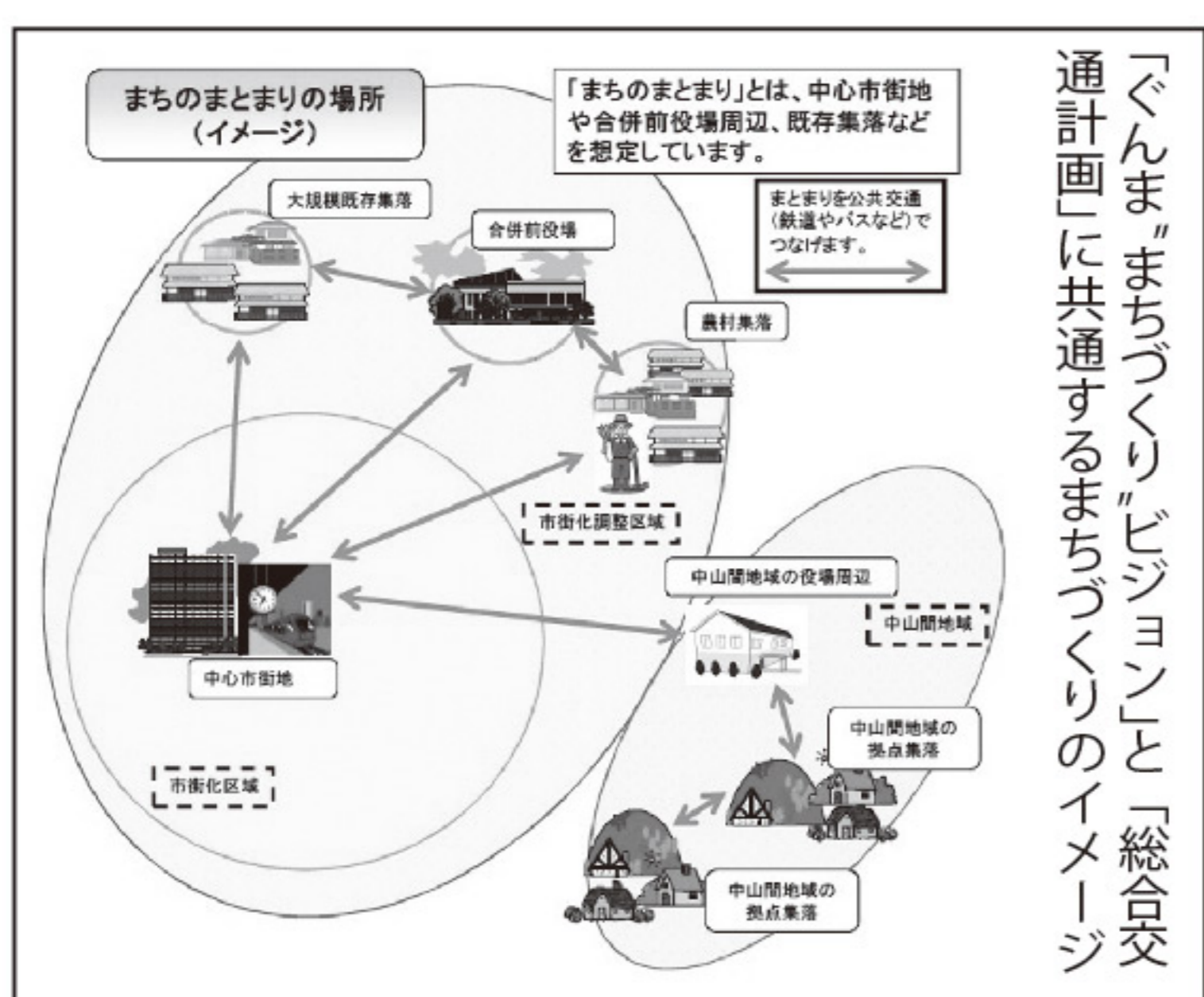
人口減少・高齢化のインパクト
 後藤の県議としてのメインテーマの一つが「コンパクトなまちづくりへの転換と公共交通の再生」です。

住宅や公共・商業施設などの都市機能を郊外に「薄く広く」拡げる人口増加時代のまちづくりは、道路や下水道等のインフラの限なき整備とともに、マイカー依存のライフスタイルを形成することとなりました。

しかし、これから迎える「人口減少と高齢化」という現実を見据えたとき、高齢者を中心に交通弱者は激増し、更には人口減により税収が減る中、増大する道路・下水等道のインフラの維持コストが財政を圧迫することになります。

始まりは、まちづくりを転換する「ビジョン」の策定から

このような問題意識のもと、後藤は平成23年の一般質問において、これまでの人口減少時代のまちづくりからの転換をは



かる「ビジョン」策定を提言。翌年には群馬型のコンパクトシティを進める「ぐんま“まちづくり”ビジョン」の策定に至りました。

コンパクトシティと言っても、「群馬型」は、中心市街地のみならず都市機能を集中させるといえるものではありません。旧町村の役場や商店街周辺、大規模集落など、かつての「街のまとまり」を再生し、それらを公共交通で結びつけることにより、徒歩や公共交通中心のライフスタイルを可能にするとともに、インフラ整備の際限なき拡大を抑制するまちづくりを指向するものです。

これに続き、「総合交通計画」策定に着手したことは、本県のまちづくりの方向性が大きな転換の一步を踏み出したこととなります。

「衰退を食い止める」から「新たなライフスタイルを提供するインフラ」へ

今定例会において「総合交通計画」の基本的な考え方が示されましたが、「高齢者等の移動手段が無くなる↓公共交通の確保」つまり、「県民の足の確保のために、やむなく衰退を食い止める」という対症的な発想から出発しています。(裏面へ続く)